

令和3年第1回小牧市休日急病診療所運営協議会 会議録

【開催日】令和3年12月17日（金） 午後2時30分～

【開催場所】小牧市保健センター 3階 運動指導室

【出席者】委員9名

森雅典委員、高野健市委員、三輪雅一委員、塚原憲児委員、
飯田資浩委員、木全勝彦委員、伊藤俊幸委員、高橋博之委員、
入江慎介委員

事務局

江口健康生きがい支え合い推進部次長、泉保健センター所長、
野口保健センター所長補佐、余語予防検診係長、増田主任

【欠席者】委員3名

船橋益夫委員、増井恒夫委員、谷口健次委員

【傍聴者】なし

【議 事】

1. あいさつ

（事務局）

本日は、寒い中またご多忙の中ご出席を賜りましてまことにありがとうございます。ただいまより小牧市休日急病診療所運営協議会を開催させていただきます。

さて、本会議の開催に先立ちまして、委員の一部に変更がございましたのでご紹介します。

初めに、小牧市副市長の伊木利彦委員は公務多忙により参加が難しくなったことから、委員を変更させていただきました。後任として福祉部長の伊藤俊幸委員になります。

次に、消防長の余語敏彦委員が退職となりましたことから、後任は消防長の高橋博之委員になります。

後任の委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中にも関わらず、委員をお引き受けいただきましてありがとうございます。

なお、後任の皆様は、令和3年4月1日から令和4年7月31日までとなりますので、よろしくお願いいたします。

この会議につきましては公開会議となっておりますので、事務局で議事録を作成し、市役所本庁舎 1 階にあります情報公開コーナーと市ホームページにて公開させていただきます。

本日欠席の連絡をいただいておりますのは、小牧市医師会の船橋委員、春日井保健所長の増井委員、小牧市民病院長の谷口委員であります。傍聴希望者はございません。

それでは、はじめに、健康生きがい支え合い推進部次長の江口よりごあいさつ申し上げます。

(事務局)

皆様こんにちは。本日はご多忙のところ、小牧市休日急病診療所運営協議会にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

また、皆様方には平素より保健、福祉、教育、消防など、市政各般にわたりご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、昭和 53 年度に開設しました休日急病診療所ですが、本年度から運営を小牧市の直営という形に体制を移行させていただきました、8 か月余が過ぎたところでございます。この間には、新型コロナウイルス感染症の第 4 波、第 5 波を迎えるなど、医療現場は非常に厳しい状況であったかと思えます。こうした中、休日急診療所におきましても大きな問題もなく運営することができましたのは、これもひとえに、市医師会、市歯科医師会、市薬剤師会はじめ、現場でご尽力いただいている皆様方のお力添えの賜物でありまして、心から感謝申し上げる次第です。本市といたしましても、今後も、「市民の皆様信頼され、利用しやすい運営」を進めて参りたいと考えておりますので、皆様方のより一層のお力添え、ご助言をお願い申し上げまして、簡単ではありますが開会に際しての挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いたします。

1. 会長あいさつ

(事務局)

続きまして、会長よりごあいさつをいただきます。

(森会長)

会長をしております、小牧市医師会の森でございます。本日はお忙し

いところお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。さて、新型コロナウイルス感染症が始まりまして、もうすぐ2年になります。最初は手探りでやってきまして、最近はわかってきたことも多くありますが、まだまだ分からないこともたくさんあります。そういった中で、本日は令和2年度の話が主体になるかもしれませんが、年末年始、あるいは第6波に向けてということも含めてご議論いただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。これより議事に入ります。議事の進行を会長にお願いいたします。会長、よろしく願いいたします。

2. 議題

(森会長)

それでは議事に入らせていただきます。

議題(1) 令和2年度小牧市休日急病診療所事業報告についての、ア. 診療状況について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、事務局より令和2年度小牧市休日急病診療所事業報告の診療状況についてご説明いたします。

A3横の資料1-1をご覧ください。令和2年度の診療日は日曜日と祝日、年末年始の計70日となりました。年間利用者は1,221人です。その内訳としては、最も多かったのが内科の503人で、全体の41.2%を占めています。これに、小児科が361人、全体の29.6%、外科が268人、全体の21.9%、歯科が89人、全体の7.3%と続きます。市内在住者の割合は85.5%となっており、88.0%が市内在住者であった昨年度に引き続き、おおよそ例年通りの数字となっております。受診者数につきましては、令和元年度と比較して2,924人の減となっております。

続きまして、資料1-2をご覧ください。資料1-2には診療科ごとの内訳を記載させていただいておりますが、前年度比のパーセンテージでは、内科が28.6%、小児科が20.6%、外科が57.5%、歯科が57.4%となっており、特に内科と小児科の減少が顕著な状況となっております。

これは、診療日が前年度より5日少ないことも要因の一つかと思われますが、全体的な傾向としては、やはり新型コロナウイルス感染症に伴う診療控えが続いていることが大きく影響していると思われます。新型コロナウイルス感染症については、令和2年4月に緊急事態宣言が発令されたことから、令和元年度の3月ごろから診療控え等の影響が生じ始めているものと考えられるため、3月についてはすべての診療科において、令和元年度と同2年度の差がほぼない状況になっているものと思われます。また、インフルエンザ感染者も、12月頭から1月末ごろの愛知県定点医療機関の報告数で比較いたしますと、前年度比で0.07%、実に99.93%の減少となっており、内科、小児科における冬季の患者数減の複合的な要因となっていると思われます。

続いて資料1-3をご覧ください。資料1-3は平成27年度以降の患者数推移をまとめたものとなります。平成30年度までは増加傾向にあったものが、令和元年度で減少傾向に転じ、令和2年度は前年度比で29.46%、実に70.54%の大幅減となっております。

続いて資料1-4をご覧ください。資料1-4は歯科の診察実施状況についてまとめたものです。性別差では男性と女性が6:4程度の割合となっています。年代別では40代以上の方の受診が多くなっています。地区別ではほぼ市内の方による受診となっており、94.4%に及んでいます。全体としては、前年度と同様の傾向となっております。

以上で診療状況に係る事務局からの説明を終わります。

(森会長)

ありがとうございました。

医師会から何かコメントはありますか。

(塚原委員)

休日急病診療所担当理事の塚原です。今言われたように、令和2年の3月から新型コロナウイルス感染症が日本国内で見られるようになってきて、資料のグラフでも令和3年の3月から急激に減って、令和2年度は低いままの状態を維持しています。患者側、特に小児科なんかはちょっとしたことで受診していたのが抑制するようになったのが大きいと思います。もう一つ、マスクや手洗いをきちんとしているがために、

新型コロナウイルス感染症以外の、インフルエンザを含む感染症に罹りにくくなったのも大きな要因だと思います。外科系の方は若干外に出る機会は減ったかもしれませんが、それほど大きく減ったわけではないですし、歯科も内科小児科ほどの落ち込みはございません。

そのような状況ですので、この患者数減は仕方がないものと思います。今年度も似たような状況でして、1日に20人いかない程度で推移しています。

以上です。

(森会長)

ありがとうございました。

続きまして、歯科医師会から何かコメントはありますか。

(飯田委員)

昨年度は、どうしても新型コロナウイルス感染症の影響がありましたので、患者数の減はやむを得ないものと思います。ただ、令和元年度、令和2年度を比較しますと、全体に占める割合としては3.7%から7.3%と倍程度になっています。歯科は日ごろから感染症対策を行っているので、新型コロナウイルス感染症の状況下であっても、歯科の受診抑制にはあまりつながらなかったのではないかと分析しております。

ありがとうございました。

(森会長)

ありがとうございました。

薬剤師会からは何かありますか。

(木全委員)

薬剤師会の木全です。新型コロナウイルス感染症の関係で、大幅な落ち込みというか受診抑制が強くかかっています。薬の方も出る量が少なくなったというのがあります。指定感染症になっているということもありますので、ガウンを着ながらなどの患者様への対応が結構大変だったなというのが一年を振り返った印象です。

(森会長)

ありがとうございました。

続いて、イ．収支状況について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

令和2年度小牧市休日急病診療所事業報告の収支状況についてご説明いたします。

資料2-1をご覧ください。令和2年度の歳入につきましては、970万4千円でした。令和元年度の4,027万8千円から3,057万4千円の減となります。支出につきましては、5,410万9千円でした。令和元年度の5,980万1千円から569万2千円の減となります。これらを差し引きした市費負担分につきましては、4,440万5千円でした。これは令和元年度の1,952万3千円から2,488万2千円の増となります。患者数は前年度比で2,924人減の1,221人であるため、一人あたりの市費負担額は36,367円、前年度比で31,658円の増となります。これは施設の維持管理費や人件費等の支出に大きな変化がなかった半面、患者数減を受けて診察料による収入が大幅に落ち込んだことによりです。

続いて、資料2-2をご覧ください。休日急病診療所に相当する施設を保有している近隣自治体に、過去3年の収支状況について照会した結果を取りまとめたものとなります。一部の自治体については、他の施設と併設型になっている関係上、個別に算出できないとして支出に維持管理費が含まれていないなど、算出基準に差がありますので、あくまで参考としてください。

平成30年度の岩倉市において0.16%のプラスとなっている以外は、基本的には全ての年度、自治体において、支出が収入を上回っており、額の多寡はありますが、自治体の持ち出しが回っていることがわかります。また、年度ごとの割合の変遷についても著しい差はなく、おおよそ似た経緯をたどっていることが推察できます。

以上で収支状況についての説明を終わります。

(森会長)

ありがとうございました。ただ今の説明の中でご意見等がありましたらお願いします。

無いようですので、報告（１）新型コロナウイルス感染症に係る年末年始の対応について、事務局からの説明をお願いします。

（事務局）

次第３（１）新型コロナウイルス感染症に係る年末年始の対応について報告させていただきます。

資料３をご覧ください。令和３年度年末年始における新型コロナウイルス感染症対応フローについて、上から順にご説明いたします。

まず、患者様に対し、先生が発熱等の検査を行う必要があるかどうかを判断します。あると判断された場合、休日急病診療所で抗原検査を実施いたします。検査に必要な検体は患者様もしくはそのご家族に採取していただきますが、それができない場合は看護師が採取することになります。発熱患者の対応は現在も車の中で行っておりますが、検体の採取も同様に車中での実施を想定しております。検体採取後の一連の処理は、ゴールデンウィークの際と同じ建物南側の駐車場にテントを設置しますので、その中で看護師に実施していただきます。結果が陽性の場合、先生に新型コロナウイルス感染症発生届を作成していただき、医療事務員が春日井保健所へFAXにて送信します。その後、先生から、春日井保健所へ状況等の電話連絡と、患者様への説明をしていただくという流れです。結果が陰性の場合、念のためPCR検査を受けた方が良く先生が判断された場合は、フローを下へ行きまして、春日井保健所でPCR検査を実施することとなりますので、先生には診療情報提供書を作成していただき、医療事務員が春日井保健所へFAXいたします。その後、先生から、春日井保健所へ状況等の電話連絡と、患者様へ診療情報提供書とPCR検査の案内、唾液検体採取用の容器をお渡しいただいた上での説明をしていただくという流れを想定しております。

（森会長）

ありがとうございました。年末年始の対応についていかがだったでしょうか。

まあ、やり方としては昨年末と同じような感じでしょうか。

（高野委員）

去年は PCR 検査を最初にやりましたか。

(森会長)

抗原検査が先です。

(高野委員)

抗原検査はやっていましたか。

(森会長)

それは先生方の判断です。

(塚原委員)

抗原検査をやって、必要であれば PCR 検査を。

去年の年末年始は、保健所から検体採取用のスクリースピッツをいただいでいなかったのので、報告だけでした。報告して、診療情報提供書を書いて、連絡して、直接保健所からご本人ないしご家族にいついつに来てくれと連絡があって、保健所で検体を採取する流れでした。

しかし、今年度のゴールデンウィークからスクリースピッツをいただけるようになったので、休日急病診療所でお渡しする流れに変わりましたが、まずは抗原検査ですね。

(高野委員)

去年はインフルエンザの抗原検査ってやっていなかったですか。

(塚原委員)

やっていないです。

(高野委員)

コロナの抗原検査だけでしたか。

(塚原委員)

そうですね。

(高野委員)

去年と何かちょっと違うなと思ったらその点でしたか。

(森会長)

今回はコロナとインフルエンザの抗原検査が一括でできますので。便利になったといえれば便利になったなど。

(森会長)

他にご意見はよろしいでしょうか。

特に無いようですので、進行を事務局にお返しします。

(事務局)

ありがとうございました。以上をもちまして令和3年度第1回小牧市休日急病診療所運営協議会を終了します。交通事故が多発しておりますので、皆様お気をつけてお帰り下さい。ありがとうございました。